

再び、ソウシチョウについて

前号で中国原産のソウシチョウ（相思鳥）が二上山に集団で現れたこと、日本における野生化のいきさつなどを書き、この山での定着に不安と期待をもっていると述べました。

その後複数の人から目撃情報が寄せられ、私自身も麓と中腹で2度この鳥に逢いました。その2回とも2羽が寄り添うように、笹藪の中に居ましたから、春を迎えるにあたって雌雄がカップルを作り、営巣・産卵・育雛にかかるのでは無いかと思っています。

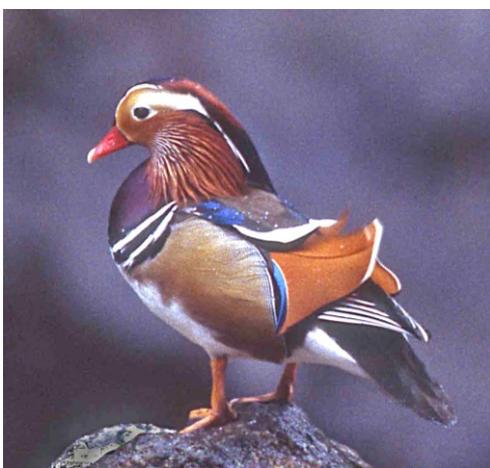
そうすると、生活域が重なるウグイスなどへの影響、もしウグイスが減少したら、その巣に托卵するホトトギスはどうするのだろうかなどと、影響の広がりがかかります。

又、興味本位で申し訳ありませんが、この鳥の名の由来である「雌雄の仲睦まじさ」がどの程度のものなのかを、専門家が明らかにしてくれることへの関心も持っています。

一雌一雄（一妻一夫）と考えられてきた鳥類の多くが、実際にはそうでない事が、研究によって明らかにされています（タイム・パークヘッド著「乱交の生物学」）。おしどり夫婦の語源とされたオシドリですら例外ではありませんでした。これは厳しい生存競争にさらされる野生生物が、種としての保存・繁栄をはかる上で有利な生活方法を選択した結果と考えられます。身近に見る生物生態の不思議、進化の妙は門外漢の私にも強い関心を抱かせます。



ソウシチョウ 澤木さん撮影



オシドリ (澤木さん撮影)

2月16日 金剛山に雪中登山

土庫病院友の会山歩きクラブの例会登山に参加しました。御所市高天（たかま）から「郵便道」と呼ばれる登山路を登り、下山は千早赤阪村青崩（あおげ）に至る「青崩道」を辿りました。

登山口からアイゼンを着けましたが、山頂部では30~40cmはあろうか、深い雪が積もり、ロープウェイでも来たのか、小さな子ども



たちが雪だるま作りやそり遊びに歓声をあげていました。地面も林も白く輝き、分厚い雪に覆われた大木、巨木が快晴の空に向かって、くっきりした姿で林立していました。

連続歴史講座 いよいよ「大和の中世史」に

健生会友の会主催の講座「地域の歴史を学ぶ」の第7回目が1月26日（土）開かれました。今回から「大和の中世史」が7回にわたって行われます。講師は天理大学教授の吉井敏幸先生、会場は大和高田市の健生荘多目的室。



冒頭、吉井教授は今後7回に亘る「大和の中世史」の講義概略を、各回講義のポイントにも触れて説明しました。

この日の講義の演題は「寺社の都——東大寺と興福寺」。平城京の廃都の際、巨大寺院である東大寺や興福寺は奈良に残り、その寺院を中心とした南都

の発展、興福寺の勢力拡張と大和支配の進展などを具体的史料をも紹介しながら話しました。

2時間に及ぶ講義の後、質疑応答が行われ、「古代と中世の違い、その区分の時期はいつごろか」などの質問に、講師が丁寧に答えていました。参加者からは「奈良の町がどのように出来たか、が理解できた」とか「ますます歴史が楽しくなった」などの感想が寄せられました。

次回からの日時とテーマは次の通りです。（時間は午後2時～4時半、於：健生荘）

- | | | |
|----------|----------|----------------------------------|
| 2月24日（日） | 大和の中世史－2 | 興福寺の大和一国支配と国衙・大和侍 |
| 3月24日（日） | 〃 | －3 春日若宮のおん祭と六方衆 |
| 4月28日（日） | 〃 | －4 貞慶・重源・叡尊・忍性・覚盛
－南都で活動した仏教者 |
| 5月19日（日） | 〃 | －5 奈良町の発展 |
| 6月23日（日） | 〃 | －6 戦国時代の大和国と衆徒国民 |
| 7月21日（日） | 〃 | －7 信長・秀吉と大和国 |

なお、「大和の中世史」が終了すると特別講義が予定されています。8月25日（日）特別講義「インダス文明はなぜ急速に衰えたのか」（仮題）

講師 長友恒人 奈良教育大学学長

御期待下さい。この連続講座は友の会会員向けですが、当日入会も歓迎されます。